

— 多様な主体による協働のまちづくり —

わたしたちの 身近な暮らしにある 「助け合い、支え合い」



住み慣れた地域が「いつまでも暮らしやすく、これからも住み続けたい」と、皆さんが感じられる地域社会をめざし取り組まれてきた事例を3回シリーズで紹介しています。

シリーズ2回目となる今回は、多様な主体が強みや得意をいかした協働事例を取り上げました。

※ 前は広報よさの8月号（No.222）に掲載しています

企画財政課 ☎ 43-9015

事例 1

地域で支え合う むらづくりの推進

農村 RMO



農地をみんなでシェアする市民農園

与

謝・滝・金屋エリアは、水が豊富で肥沃な農地が広がり、日本酒の酒蔵もある地域です。近年、地域の担い手が減少し、さまざまな地域課題が浮上してきている中、「与謝地域山村活性化協議会」が地域ぐるみで地域を守っていくための取り組みを進めています。

この協議会は、農業団体や地域の事業者、社会福祉法人、観光協会、各地域の区長などの多様な主体で構成。それぞれの強みや得意をいかし、地域内外の交流と活気を生む「秋の大感謝祭イベント（12ページに関連記事）」の開催のほか、ドローンを活用した水田の見回りやLINEを活用したデジタル発信、農地を活用した「市民農園」などに取り組まれています。



与謝地域山村活性化協議会の紹介（アグリサイクル）

農村 RMO
(Region Management Organization)

複数の集落の機能を補完して、農用地保全活動や農業を核とした経済活動と併せて、生活支援等地域コミュニティの維持に資する取り組みを行う組織（農村 RMO ホームページより引用）

事例 2

地域住民の 交流づくり

シーサイドサロンあそ



今年で10年目を迎えた「シーサイドサロンあそ」。地元中学校の演奏、伝統芸能やダンスの披露、健康相談、飲食ブースの開設など、毎回工夫をこらした内容で開催されています。
※ 4月・10月の第4土曜日に開催（7月と8月は休み）

阿

蘇シーサイドパークを交流の場に——。「岩滝長寿会連合会・若手部」が

中心となり、今までにない新たな取り組みとして立ち上げられた『シーサイドサロンあそ』は、今年で10年、通算56回の開催を数えます。コーヒーをお供にみんなが集い、地域の文化や芸能に触れ、地域のいいもん・美味しいもんを堪能する。時には体を動かすことができる場として、子どもから高齢者までが、1日楽しめる事業となっています。

「人と人がつながる場や、つながっていく機会が減りつつある。このシーサイドサロンあそを続けていくことが、安全で安心して住むことができる地域づくり、元気の出るまちづくりになる」と長寿会会員の皆さんは口をそろえます。

各種団体、福祉や看護関係者、行政など、多様な主体と協力・連携した交流の場づくりが進んでいます。



話す場の様子（岩滝地域）

事例 3

お互いさまの 支え合い

生活支援体制整備事業

与

謝野町と与謝野町社会福祉協議会（以下、社協）では、高齢者が安心して暮らし続けられる地域をつくるべく、いく事業「生活支援体制整備事業」を実施し、子どもから高齢者までの皆さんが住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、地域の支え合いを推進しています。

この取り組みは、生活支援コーディネーターが地域の中での調整役となり、住民同士が地域のことやお互いのことを知り、地域で助け合う関係づくり・仕組みづくりを話し合う場をつくり、地域の困りごとや地域にある資源、地域に必要な資源などについて情報を持ち寄り話し合っています。

「地域のことを地域の皆さんで話すことが大切です」と話すのは、社協で生活支援コーディネーターを担う長島悦子さん。地域住民主体の支え合いの活動が新たに始まったり、これからも続いたり、広まっていくことを応援しています。



丹後の地域活動紹介の動画（Youtube）